シリーズ 人・ひと

美杉町下之川にある篠ヶ広地域は、君ヶ野ダムから八手俣川を上流に行くとある集落です。戸数は年々減り、現在では、ほぼ全世帯が高齢者で、そのうち約７割が一人暮らしです。

５年前にこの集落に移り住んだ米川正人さんは、月に一度、集会所で「サロンおいそ(老蘇)の集い」を開催し、カラオケや頭と体のエクササイズ、映画鑑賞、提供された野菜などを使った調理・会食、参加者の誕生会などを行っています。

「サロンおいそ(老蘇)の集い」
主催者 **米川 正人さん**

サロンを開催することになったきっかけは？

地域の自治会で年一回行われていた寄り合いに、初めて参加した時、地域の皆さんの表情がとても良かった。「年一回と言わず、月に一度は近くの人で楽しく集まれたら」と考え、妻と、篠ヶ広で生まれ育った玉木さん夫妻とともにこのサロンを立ち上げました。

サロンを立ち上げた
米川さんご夫妻と玉木さんご夫妻

参加している皆さんの様子は？

参加した高齢者からはよく「世話掛けて、すまんな」とか「子どもたちや若い人たちに迷惑を掛けたらあかん」といった言葉が出る。僕はそれは違うと思う。一人一人がそれぞれの人生を生きて今がある。「わるいな、すまんな」は「世話を掛けるけど楽しみにしている。これからもよろしく」という言葉だと受け止め、活動しています。

サロンへの参加は難しい人もいるのでは？

脚の調子が悪い人など、集いの場所に来ることができない人は、迎えに行って参加してもらっています。トイレの介護などもやりながら、たくさんの人に参加してもらえるようにしています。80歳の参加者が「私はもうあかん、歳やわ」と弱音を吐くと、そのとなりで91歳の参加者が「何言っとんの！私は91歳やに」とつっこんでいました。

篠ヶ広でサロン活動をすることについて

普段から知っているようでご近所さんを知らない。集まることで絆が深まっているように思う。孫の誕生会はあっても、高齢者の誕生会はなかなか開いていないでしょ。よく「限界集落」という言葉を聞くが、ここは「限界」をはるかに超えている。何とか踏みとどまることを考えたい。サロンをやっている中で困難もあるが、やはり集まる楽しさ、参加者の笑顔に勝るものはない。古くから大切にされてきたことと、新しいことの融合が大切だと思います。もとからこの篠ヶ広に住んでいた玉木さんご夫妻がいなかったら、この活動はできなかったと思います。

参加者の声から

- 米川さんがいなかったらこの活動はできなかった。米川さんの新しい考えがこの楽しい会の種をまいてくれました。
- 何を食べても一人ではおいしくない。夜になるとテレビばかり見ているけれど、テレビは一方的に聞くだけで、人と話すことがない。こんな会は、とてもありがたいです。
- 自分は生まれ育ったこの土地から娘の住むところに引っ越したのだけど、このサロンのおかげで月に一回は慣れたここにきて仲間とおしゃべりができる。